

パープレミアム商品券」、「まちなかバル」などの取り組みをやっています。

私たちが今やれること、やるべきことは、商工会議所に所属する「舞鶴の経済人」として各々の企業活動を通じて、地域経済の活性化や豊かで住みよい郷土づくりに積極的に貢献することです。

## 2. 意欲ある企業をサポート

熱い思いをもって、絶え間ないイノベーションへの挑戦や人材育成、技術継承などに取り組む会員企業に対して、これを守り育てる立場から、国・府・市などの行政機関や関係団体と連携を図りながら会員企業の経営体力を強化するための確かな支援に努めます。

地域の商業振興については、まずは中心市街地の活性化です。まちの賑わい創出事業として取り組まれている「100円商店街」や「シルバークレミアム商品券」などの様々な取り組みに対して、その効果を精査しながら事業の拡大・展開も含めて、行政や関係団体と連携してその支援に努めます。まちなかの空き店舗などを会場として活用し、健康づくり、カルチャー、大学の公開講座などの様々な講座を開設する「まちなかキャンパス」も面白い取り組みです。

舞鶴のものづくりについて言えば、市内には、重厚長大産業からソフトウェア開発企業まで多様で特色ある業種が存在しています。

どんな不況の時代でも、したたかに乗り切ることのできるタフな産業構造の町を形成するためには、「産業集積の核」となる複数の「基幹的事業所」が存在することが必要です。本市には造船産業（機械金属産業）やガラス産業（自動車関連産業）、環境関連産業（プラント機器メーカー・発電施設）、食品産業などの基幹的事業所があります。

これらをリーディング企業としてさらに機能させることができないか、これも課題の一つです。日本海側拠点港である京都舞鶴港を利用した海外ビジネスは、新しい物流や新商品の開発を促進し、新分野への進出や新たな産業創出に繋がるものであり、外需を積極的に取り込もうと海外展開を目指す企業に対しては大いにサポートしてまいります。

観光においては、クルーズ客船で訪れる内外の観光客を受け入れる地元体制づくりを急ぐとともに、数年後には高速道路網が完成することから、観光協会と連携して産業・スポーツ・グリーンツーリズムなどの着地型観光に取り組めます。京都

府北部や福井県若狭地域に周遊してもらうことで「交流人口」を増やしたいと考えており、このビジネスチャンスを活かし事業展開を図る企業を応援します。

会員企業に対しては、引き続き、経営支援員による窓口相談・巡回指導をさらに積極的に取り組み、会員が何を考え、やっているかを常に把握し、会員のニーズに合ったきめ細かなサービスをスピーディーに提供してまいります。

## 3. 『環境』をキーワードに産業振興

生活を守り、経済の成長を支えるためには、省エネ・再エネの推進とともに、原子力発電を含む多様な電源構成（ベスト・ミックス）の維持が必要です。納得できる価格で、満足できる品質の高い、安定した“エネルギー供給”があってこそその企業活動であり、日々の暮らしではないでしょうか。

本当の民意に基づいて国のエネルギー政策が正しく実行されるよう、経済界からもしっかりと声を上げなくてはなりません。

こうしたエネルギー事情の中で、舞鶴商工会議所は、昨年まとめた「政策提言」において、環境産業を創出することの大切さを提言しました。

一つには、「洋上風力発電」で、日本を取り巻く海の風を“自前”のエネルギー資源として活かし、日本経済を再生しよう～、京都府北部地域に不況に強い産業基盤を確立しよう～ というものであります。

二つには、「木質系バイオペレットの活用」で、化石燃料に代わる地球にやさしい燃料として、小中学校の暖房や産業用ボイラーへ使用することによって低炭素化社会を実現しよう～ というものであります。

また、会員企業の事業活動においては、引き続き、国や府市の制度を活用しながら、省エネや仕事の効率化、経費の削減などに繋がる「環境経営」をすることで、環境と経済の両立を目指します。

これからも、可能な限り「生活の質」を維持しながら、豊かな自然を次世代に引き継いでいく「持続可能なまちづくり」を念頭に、当事者意識を持って経済界の立場から、あらゆる環境活動に力を注いでまいります。

